

アーバン芝生植生化の狙い －失われるまちの表土機能の回復を目指す－

講師 伊藤幹二氏（マイクロフォレストリサーチ株式会社）

主催 NPO法人アーバン芝生植生化研究所

日 時 : 2025 年 11 月11日（火）13 時 30 分～15 時 30 分

開催方法 : ZOOM によるオンライン形式, 参加費無料

参加申込み : 申込先: s-nishioka@shirasaki.co.jp (西岡: 開催担当者)

参加者のご氏名(所属)、アドレスを明記の上、11月5日までにお申し込みください。

後日 ZOOM の URL をメールアドレスにお送りします。

〈講演要旨〉

この夏も生活者は深刻な暑熱環境と内水氾濫に苦しめられました。この事態の根本原因は、まちの表土が大半舗装と雑草に覆われ、本来備えているべき「表土の機能」が喪失してしまったことにあるというのが、講演者の見解です。今回は、なぜそう結論付けられるのか、そして、なぜ芝生植生化が表土の機能回復・まちの環境改善に活かせるのかについて解説します。社会は長年、技術がほとんどの問題を解決するという思想のもとに進んできましたが、その結果、自然資源は生成されるより早く消耗され、地球環境を保護している皮膚ともいえる表土と植生は、使い果たされつつあるという現実直面することになりました。私たちの「まち」のあり方も、これに加担しているのです。本セミナーの目的は、参加者の一人一人がこの事実を踏まえ、問題解決に向かう意識を共有することです。



〈講師プロフィール〉

京都大学大学院農学研究科博士課程中退、
農学博士

日本・米国企業において植物資源管理の技術開発に従事、2001年独立し現職。NPO法人緑地雑草科学研究所, NPO法人アーバン芝生植生化研究所, NPO法人兵庫県樹木医会の理事を務める。

〈主催者紹介〉

NPO法人アーバン芝生植生化研究所は2024年発足の新しい法人です。前身である「NPO法人グラスパーキング技術協会（2012年設立）」の事業活動を通じて知った生活圏環境劣化の実態と改善への芝生植生活用の可能性、および蓄積した科学・技術をもとに立ち上げました。今回のセミナーは活動のスタートです。今後は、趣旨を共有下さる方・団体とネットワーク構築をしながら発展していく所存です。なお、法人概要はホームページ（<https://gp-gijutsu.net/>）にてご覧ください。

本講演の関連書籍

「まちの健康回復に芝生の力を活かすーグラスパーキングの科学」, 伊藤幹二・伊藤操子著, 大阪公立大学共同出版会, 2020年6月発行